

## 河川事業

### 再評価原案準備書

#### 網走川直轄河川改修事業

<再評価>

事業名 (箇所名)	網走川直轄河川改修事業		担当課 担当課長名	水管理・国土保全局治水課	事業 主体	北海道開発局					
実施箇所	北海道網走市、大空町、美幌町、津別町										
該当基準	再評価実施後一定期間(5年間)が経過している事業										
事業諸元	河道掘削、堤防整備、防災ステーション整備等										
事業期間	平成27年度～令和16年度										
総事業費 (億円)	約60			残事業費(億円)	約27						
目的・ 必要性	<p>&lt;解決すべき課題・背景&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成4年9月洪水により甚大な被害が発生しているほか、近年も度々洪水被害が発生している。</li> <li>平成27年9月に網走川水系網走川河川整備計画(国管理区間)を策定し、戦後最大規模の洪水を安全に流下させることを目標として、河道掘削を中心とした整備を行う。</li> </ul> <p>洪水実績：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和23年 8月洪水(氾濫面積 676 ha、被害家屋 102戸)</li> <li>昭和54年10月洪水(氾濫面積 795 ha、被害家屋 89戸)</li> <li>平成4年 9月洪水(氾濫面積 9,585 ha、被害家屋 322戸)</li> <li>平成13年 9月洪水(氾濫面積 1,124 ha、被害家屋 1戸)</li> <li>平成18年10月洪水(氾濫面積 246 ha、被害家屋 10戸)</li> <li>平成27年10月洪水(氾濫面積 429 ha、被害家屋 46戸)</li> <li>平成28年 8月洪水(氾濫面積 761 ha、被害家屋 0戸)</li> </ul> <p>&lt;達成すべき目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>網走川下流域について、戦後最大規模である平成4年9月洪水を安全に流下させることを目標に、流下断面不足の解消、河川防災ステーションの整備を進める。</li> </ul> <p>&lt;政策体系上の位置付け&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政策目標：水害等災害による被害の軽減</li> <li>施策目標：水害・土砂災害の防止・減災を推進する</li> </ul>										
便益の主な 根拠※	年平均浸水軽減戸数：20.11戸 年平均浸水軽減面積：51.51ha										
事業全体の 投資効率性※	基準年度		令和2年度								
	B:総便益 (億円)	306	C:総費用(億円)	59	B/C	5.2	B-C	247	EIRR (%)	17.8	
残事業の 投資効率性※	B:総便益 (億円)	212	C:総費用(億円)	23	B/C	9.3					
感度分析 ※			残事業(B/C)		全体事業(B/C)						
	残事業費(+10%~-10%)	8.5 ~ 10.3	5.0 ~ 5.4								
	残工期(+10%~-10%)	9.3 ~ 9.5	5.1 ~ 5.3								
	資産(-10%~+10%)	8.4 ~ 10.2	4.7 ~ 5.7		当面の段階的な整備(R3~R7):B/C=5.4						
事業の 効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備計画における整備メニューの実施により、戦後最大規模の洪水を安全に流下させることができる見込みである。</li> <li>整備により、浸水家屋約1,000戸、氾濫面積約2,700haが、浸水家屋0戸、氾濫面積約200haに軽減できる。</li> <li>同様に、避難率0%の最大孤立者数を約1,900人から0人に軽減できる。</li> <li>同様に、電力の停止による影響人口を約1,600人から0人に軽減できる。</li> </ul>										
社会経済 情勢等の 変化	<p>&lt;災害発生時の影響&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>流域内及び想定氾濫区域内人口は、平成27年と比べやや減少しているが、世帯数はほぼ横ばい、65歳以上の人口比率は増加している。</li> <li>網走川流域は主に畑作として、てんさい、小麦、ばれいしょ、タマネギ等の生産が盛んに行われており、特にてんさい、ばれいしょの生産は全国シェア10%以上となっている。また、網走湖のシジミ及びワカサギは全道一の水揚げを誇り、全国的にも有名な産地として、地元水産物のブランド化に向けた取組が進められている。</li> <li>主要交通網であるJR石北本線や国道39号、国道238号のほか、てんさい製糖所、の工場等が立地しており、これらに浸水被害が発生した場合、オホーツク地域と北海道内中核都市間の輸送や観光、地域の経済活動に影響を及ぼすものと考えられる。</li> </ul> <p>&lt;地域の協力体制&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域市町村で構成されるオホーツク圏活性化期成会は、網走管内の開発促進を目的に組織され、毎年、網走川の治水安全度の早期向上を要望している。</li> </ul> <p>&lt;関連事業との整合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害時における水防活動や災害復旧の拠点として、また、災害情報の集配信機能、水防団等の活動拠点機能、物資輸送の基地等の機能を併せ持つ拠点として、河川防災ステーションの効果的な活用を図る。また、維持管理体制についても、地元市町村と協力して実施する。</li> <li>河川災害情報普及支援室等の活動を通じ、市町村の洪水・津波ハザードマップの情報をさらに充実するための支援や住民への普及促進の支援をしている。</li> </ul>										
事業の 進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>河道掘削 網走川下流域の治水安全度向上を目的に、河道掘削を実施している。</li> <li>堤防整備 網走川下流域の治水安全度向上を目的に、堤防整備を実施している。</li> <li>危機管理型ハード対策 越水等が発生した場合でも堤防決壊までの時間を少しでも引き伸ばすことを目的に、堤防の天端保護と裏法尻の補強を実施した。</li> <li>大空地区河川防災ステーション 災害時の水防活動や災害復旧の拠点等として、大空地区河川防災ステーションの整備を実施している。</li> </ul>										
事業の進 捗の見込 み	<ul style="list-style-type: none"> <li>当面の整備として、網走川下流域において、戦後最大規模である平成4年9月洪水を安全に流下させることを目標に流下断面不足の解消、河川防災ステーションの整備を進める。</li> <li>河道掘削等を着実に進捗しており、引き続き整備を進める。</li> </ul>										
コスト縮 減や代替 案立案等 の可能性	<p>&lt;コスト縮減&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>非出水期の樋門改築によるコスト縮減と掘削残土の堤防盛土流用によるコスト縮減を実施している。</li> </ul> <p>&lt;代替案立案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>網走川水系河川整備計画検討時には、河道改修による治水対策案のほか、遊水地や雨水貯留浸透施設等を組み合わせた治水対策案を複数検討した。事業進捗等に伴う事業費の増加を考慮したが、河道掘削案はコスト面等での優位性に変化がないことを確認した。</li> </ul>										
対応方針	継続										
対応方針 理由	事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。										

その他	<p>&lt;第三者委員会の意見・反映内容&gt; (第三者委員会後、意見を反映)</p> <p>&lt;都道府県の意見・反映内容&gt; 当該事業は、戦後最大規模の洪水流量を安全に流下させる河道の整備等を行うことに加え、災害時の水防活動や災害復旧の拠点として、河川防災ステーションを整備することにより、洪水被害から人命と財産を守り「安全・安心」を確保することから、事業の継続について異議ありません。なお、事業の実施にあたっては、サケ・マス等の生息環境などの保全に努め、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。</p>
-----	---

※費用対効果分析に係る項目は令和2年度評価時点